日本行動計量学会
計量学会会報
第33号
1984年4月9日
日本行動計量学会
運営委員会広報係
（〒106）東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

ヴェルサイユの空は晴れていたか

林　知己夫

フランス流データ解析の一派のことは前に紹介したことがある。ベンゼクリ（Benzécri）一族のことである（『会報』20号）。統計に対する考え方や方法が我々のものと似ているので、両者は一九七八年以来、急速に接近した。

私は、統計を学び始めた頭初から数理統計学が肌に合わず、データを中核とする統計数理を標榜し、数理統計学の異端者として数理統計学の圏外に立って勝手気ままに振舞い今日に及んでいる。ベンゼクリと大いに共通するところがあり、共に語るということになった。

一九七九年の第2回に引続き、昨秋、データ解析と情報学（Analyse des Données et Informatique）の第3回国際シンポジウムに参加した。本学会から招待講演者の大隅昇氏をはじめ、岩坪秀一氏、河口至商氏、佐藤義治氏の講演や発表による参加があり、この他、神沼二真氏（都臨床医学総合研）、矢島敬二氏（日科技研）が参加された。フランスの主謀者との旧交をあたため、将来の共同研究計画を策したのは言うまでもない。会場も、ヴェルサイユ宮殿に近い、なかなかよくできた会議場であった。

シンポジウムでは、面白いもの、狙いのよいものも数多くある一方、第2回のときあまり見かけなかった、全く形式的な、データ解析の本質を考えることのない発表が目についた。意味のない数学的なことを累々展開して、数理統計学に毒されたと言えるものが招待講演の中にも出てきたのには、広がりを感じると共に淋しさも隠せなかった。こうした人達には、データ解析における数理的方法の必然性が理解できていないということであり、データ解析のフィロソフィーが解っていないということだ。つまり、数理的方法の展開がデータ解析のフィロソフィーに根ざしていないのである。これでは、折角のフランス派の運動が無に帰してしまうことになる。

もちろん、見方によっては、フランス派のデータ解析が広く普及した証拠でもある。普及すれば、本質を外れたもの、誤用、つまらぬものが多く出てくるのが世の常である。これが加速されないように、心ある人達が努力することが重要になってくる。

たとえば、コンピュータ・パッケージ化の思想とデータ解析を推進する思想とは必ずしも一致しないものである。パッケージ化、自動プログラム化が、その範囲内の思想に主導されるとき、データ解析に望ましい結果をもたらすとは限らない。プログラム主導では、発展のさせ方にいろいろの可能性があり、各種のものが出るが、データの性格を考慮しないから、いずれが望ましいかの評価を下し得ない。いわば外的基準がないから、無意味なものも含めて無限の可能性が出てくることになる。データ解析においては、データによる現象解析のフィロソフィーが主導するものでなくてはならない。これは、データの性格に応じて、それに相応しい解析の方法を考えることである。ここでは、どの方向が妥当で、何が妥当でないのかの評価が入ることになる。空集合相手のデータ解析はないのだ。こうしたデータ解析の方法がプログラムパッケージの思想によってプログラム化されるとき、データの性格

を察知し、その性格に応じて、少数の――しかし一般に複数の――解析方法が指定され、プログラムが選択されることになる。このようになって、方法が正に便利な使い易いものになり、誤り少なく、広く普及することになる。両々相俟つ必要があるのである。

学会に出れば出たで、刺激を受けるし、感ずることも多く出るし、自戒することも多くあった。

日・仏データによる比較研究をまとめた（Behaviormetrika 15号に掲載）が、共同研究者のルバー（Lebart）氏に見せたところ、内容をよく理解し、その探索的方法の重要性を見抜いているのは嬉しかった。彼は、昨年の世界統計協会の国際会議（マドリッド）の招待講演をみせてくれたが、その方法論はなかなかよく、我々の考え方に極めて近い。共同研究を進めるのに好適な男だ。彼は、ベンゼクリの良き弟子である。

H「このごろベンゼクリはどうしている？」

L「アプリケーションにとても熱心なんだ。こんどのシンポジウムでやってるような、データの本質を離れて数式中心になる理論が大嫌いなんだ。」

H「アプリケーションというが、どんな意味なんだい？」

L「いろんなデータを扱って情報を取出す方法を考えることにとても興味があるんだ。」

H「僕と同じじゃあないか。君もそうだろう。」

L「うん。」

ベンゼクリは見解が狭いと言われながらも、ベンゼクリはやはりベンゼクリ（Benzécri est Benzécri・会報20号参照）である。志を同じくする者と言いたい。

（日本行動計量学会理事長　統計数理研究所　所長）

会議議事録

○理事会

時　昭和五十八年十二月二十二日
所　統計数理研究所
出席者　理事　九名

1. 運営、編集委員の委嘱を担当理事提出の原案通り承認した。刊行物委員の人選は継続中で、次回理事会までに決定する予定との報告があった。
2. 会則見直しのための小委員会を解散し、引続き水野、岩坪庶務担当理事が、小委員会提出の会則案を基礎に、細則案作成にあたることとなった。
3. 編集委員会の形態を見直すために和文誌、欧文誌の合同委員会を開くことになった。
4. 日本シミュレーション学会主催の第四回シミュレーション・テクノロジー・コンファレンスに関して協賛学会となることを承認した。
5. 各種委員会報告、事務局報告があった。

○運営委員会

時　昭和五十八年十二月十五日
所　統計数理研究所
出席者　運営委員長、委員および事務局の計九名

1. 講習会・月例シンポジウム等の事務的処理手続きの書類諸様式（お願い状、承諾書、依頼状、派遣依頼状、お礼状など）を作成し完備した。
2. 月例シンポジウムの計画
①多次元尺度……高根氏。4月東京で（予定）。
②医学関係……5月下旬または6月上旬、大阪または岡山にて開催予定。
③選挙予測と予測報道……鮑戸氏により企画中。
3. サマーセミナーの企画
本年は講習会を中止し、会員相互にとって研究の輪が拡がるような発表、討論および親睦の場として、サマーセミナーを企画することにした。
時期……8月中旬3日間
テーマ……行動と予測（案）
場所……静岡県・富士研修所を予定。
参加定員……40～50名を予定。
参加者および発表者の募集は5月に行う予定。

○運営委員会

時　昭和五十九年二月十六日
所　統計数理研究所
出席者　運営委員長、委員および庶務担当理事の計七名

1. 月例シンポジウムの予定、計画について討議した。
2. サマーセミナーについてテーマを「行動と予測」として具体的計画を進めることとした。

会員数
正会員……九八七人
準会員……一一五人
賛助会員……四一社
（59・3・26現在）

運営委員会・編集委員会
今期の委員、決定さる

先の理事会で、運営、編集の各委員を、次の方々に委嘱することになりました。任期は、昭和五十八年九月一日～昭和六十年八月三十一日の二年間。

◆運営委員会（十八名）

〔委員長〕駒澤勉（統数研）

〔委　員〕海野道郎（関西学院大社会）、江川清（国語研）、岡太彬訓（立大社会）、楠岡英雄（阪大医）、佐藤義治（北大工）、○杉戸清樹（国語研）、関田康慶（東北大医）、高木廣文（聖路加看護大）、田栗正章（千葉大理）、垂水共之（岡山大教養）、辻岡克彦（川崎医大）、✡辻本英夫（大阪市大文）、中村隆（統数研）、福田市朗（京大教養）、村上隆（名大教育）、柳原良造（マーケッティング・サービス）、山本真理子（都立大人文）

なお、事務処理を円滑に進めるため、庶務担当理事水野欽司（統数研）および岩坪秀一（入試センター）の両氏に加わってもらいます。右記○印は会報責任者、✡印は関西地区責任者。「月例シンポジウム」「サマーセミナー」などは、そのつど担当者を決め委員全員が支援することとしました。

◆◆◆◆◆

◆編集委員会（七十四名）

〔編集長〕野元菊雄（国語研）

〔和文誌幹事長〕池田央（立大社会）

〔欧文誌幹事長〕上笹恒（筑波大哲学思想）

〔委　員〕飽戸弘（東大文）、浅井晃（千葉大理）、浅野長一郎（九大理）、阿部裕（阪大医）、○生澤雅夫（大阪市大文）、石村善助（都立大人文）、井関利明（慶大文）、井上通敏（阪大医）、岩坪秀一（大学入試センター）、○印東太郎（カリフォルニア大学）、梅沢勉（警視庁）、浦昭二（慶大工）、大島正光（医療情報システム開発センター）、丘本正（阪大基礎工）、奥野忠一（東京理大工）、小野茂（広大総合科学）、開原成允（東大医）、＊柏木繁男（千葉大文）、茅陽一（東大工）、河口至商（北大工）、木下冨雄（京大教養）、京極純一（東大法）、工藤昭夫（九大理）、久保武士（筑波大医）、小嶋外弘（同志社大文）、後藤昌司（塩野義製薬）、駒澤勉（統数研）、斉尾乾二郎（東大農）、斉藤陽一（東大医）、○佐伯胖（東大教育）、杉浦成昭（筑波大数）、鈴木達三（統数研）、関寛治（東大東洋文化研）、瀬谷正敏（青学大文）、竹内啓（東大経）、○竹村研一（筑波大心理）、戸田正直（北大文）、納谷嘉信（大阪電通大）、西田春彦（東北大文）、＊西村恕彦（東農工大工）、○野崎昭広（国際キリスト教大教養）、早川武夫（専大法）、林知己夫（統数研）、肥田野直（大学入試センター）、広田安夫（九州歯大）、＊伏見正則（東大工）、＊藤本熙（統数研）、＊古川俊之（東大医）、＊前田俊郎（専大法）、＊増山英太郎（都立大人文）、○松原望（筑波大社工）、松村良之（北大法）、○丸山久美子（盛岡大文）、水野欽司（統数研）、三隅二不二（阪大人間科学）、三宅一郎（同志社大法）、○宮原英夫（北里大医）、宮原守男（虎の門法律事務所）、○村上征勝（統数研）、村田昭治（慶大商）、○薬師寺泰蔵（埼玉大行動科学情報解析センター）、安田三郎（関西学院大社会）、安本美典（産業能率大）、＊柳井晴夫（千葉大文）、山本俊一（都老人総合研）、＊山本幹夫（帝京大医）・＊吉澤正（山梨大工）、吉田正昭（中大理工）、脇本和昌（岡山大教養）、渡部洋（大学入試センター）

ただし、○印は実務を担当する欧文誌編集幹事、＊印は和文誌編集幹事を示す。

大会日程決まる

第十二回大会
於　東京工業大学
時　十月四・五・六の三日間

昭和五十九年度の第十二回大会は、右記の通り、東京工業大学で開催することが正式に決まりました。会期は従来よりほぼ一か月遅い十月の初旬、四日（木）から六日（土）の三日間です。穐山貞登氏（東工大心理学研究室）を中心に着々と準備が進行中です。会員各位の多数の発表申込みを！

記録 第35回月例シンポジウム 第4回行動計量関西懇話会

時　昭和五十八年十二月十日
　午後一時半～四時半
所　大阪市立大学一号館
テーマ「多次元定性データの解析」
オーガナイザー
　田中　豊（岡山大教養）
司会　生澤雅夫（大阪市大文）
発表　辻谷将明（岡山商大）
　森川敏彦（武田薬品工業）
　田中　豊（岡山大）
参加者　二十一名

学会の協賛する催しのご案内

左記の二つの催しが、日本行動計量学会も協賛して開かれます。ふるってご参加下さい。

第四回シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス

主催　日本シミュレーション学会
日時　昭和五十九年六月十九日（火）～二十日（水）
会場　大阪科学技術センター
発表分野（予定・抜粋）
　シミュレーション言語と技法、システムのモデル化と分析の方法論、画像処理・信号処理、マイコンとシミュレーション、行動分析とシミュレーション、CAD・CAM・CAI　など。
問合せ先
　日本シミュレーション学会事務局（財・日本科学技術連盟内）
　〒一五一東京都渋谷区千駄ケ谷五の十の十一。担当・上窪。
　電〇三－三五二－二二三一

「人体計測とデータ処理」講習会

主催　日本人間工学会関西支部
日時　昭和五十九年六月二十七日（水）～二十八日（木）
　午前十時～午後五時
会場　関西情報センター（大阪国際貿易センタービル四階・大阪市北区中之島五丁目
プログラム
「人体の計測の動向」中野広、「モアレトポグラフィ利用の現状」鈴木正根、「モアレ計測法とその解析」高崎宏、「三次元座標計測による動態解析」中易秀敏、「赤外線による形態描画機の利用」山名信子、「シルエッター法による体型計測とその解析」鶴田宏次。
参加費　会員一万八千円、学生会員八千円、その他二万八千円、テキストのみ二千円（送料共）
申込方法　官製葉書大の用紙に、講習会名・氏名・所属・連絡先・電話・会員、学生、その他の区別・送金額・受講日を明記し、左記へ。参加料は同時に送金。
　宛名　〒五九一堺市百舌鳥梅町四の八〇四。大阪府立大学工学部経営工学科内。日本人間工学会関西支部（電〇七二二－五二－一一六一。内線二三七七）
　振替　大阪〇－一二二〇一（加入者・日本人間工学会関西支部）

「統計数理講座」のご案内

統計数理研究所でおこなっている公開講座の五十九年度の案内書ができました。関心がおありの方はお申し出下さい。
　電〇三－四四六－三〇九一
講座内容は、基本科（春・秋の二回）、数量化と多次元尺度解析、サンプリングと調査法、情報量統計学――AICによる数理統計学、安全性評価のための統計手法、経営・政策科学のための統計的手法――ベイズ統計学を中心として、に分かれており、基本科以外は各六日間です。
　なお、情報量統計学は五月中旬に大阪でも開講します。
　坂元慶行（会員・統数研）

学会誌バックナンバー購入のご案内

ご希望の巻・号名、冊数、および送付先・氏名を明記し、代金と送料を左記あてに郵便振替でお送り下さい。
◇請求先　〒一五三
　東京都目黒区駒場2－19－23
　大学入試センター研究部内
　行動計量学会事務局　岩坪秀一
◇振替
　番　号：東京八－一四八〇五六
　加入者：日本行動計量学会
◇和文誌『行動計量学』
　1巻1号　（八百円）
　2巻1・2号（各七百円）
　3巻1・2号（各千円）
　4巻1号　（千五百円）
　4巻2号、5巻1・2号
　　（各千七百円）
　6巻1号　（千二百円）
　6巻2号、および7・8・9・10巻の1・2号、11巻1号
　　（各二千円）
◇欧文誌"Behaviormetrika"
　No.1～15　（各二千円）
◇送料
　一冊　二百四十円
　三冊まで　三百五十円